

人形劇団 **クラルテ**

喜多方プラザ30周年記念事業
人形劇団クラルテ創立65周年記念事業



黎明編 火の鳥

全国縦断公演 2013

原作/手塚治虫

企画/三木孝信 脚色・演出/東口次登 人形美術/永島梨枝子
舞台美術/西島加寿子 音楽・指揮/一ノ瀬學生
舞台監督/藤田光平 照明/永山康英 制作/中山美津子

共演:喜多方市立第二中学校合唱部



2013年10月17日(木)開演18:30(開場18:00)
喜多方プラザ文化センター大ホール

入場料:全席自由/一般2,000円 学生(4才~高校生)1,500円

当日券 一般2,500円 学生2,000円 ※3歳以下のお子様の入場はできません。

主催/喜多方プラザ文化センター(喜多方プラザ自主文化事業推進協議会)

後援/喜多方市教育委員会・北塩原村教育委員会・西会津町教育委員会

テレビユー福島・福島民報社・福島民友新聞社・喜多方シティエフエム

~チケット発売所~

- ・喜多方プラザ
- ・會津風雅堂
TEL 0242-27-0900
- ・喜多方シティエフエム
TEL 0241-22-1002

7月26日より発売開始!

お問い合わせ 喜多方プラザ文化センター TEL0241-24-4611 FAX0241-24-4612

黎明編 火の鳥

原作/手塚治虫

企画/三木孝信 脚色・演出/東口次登
人形美術/永島梨枝子 舞台美術/西島加寿子
音楽・指揮/一ノ瀬季生 舞台監督/藤田光平
照明/永山康英 制作/中山美津子

共演:喜多方市立第二中学校合唱部

時は古代、クマソの国に火の中から何度でも甦り、その血を飲んだ者は永遠の生命を手に入れるという火の鳥がいた。

火の鳥を狙う女王卑弥呼に故郷の村を焼き滅ぼされ、復讐を心に誓うクマソの少年ナギは姉や幼子たちを戦から守るため、火の鳥をしとめる決心をする。

人の欲望が生み出した争いは、誰にも止める事ができないのか。

「子どもの眼が世界を変える」

脚色・演出/東口次登

「この世界は何のためにあり、人は何のために生きるのか?」といった深いテーマを、主人公の少年ナギの目線で、オブラートに包まずに、真っ直ぐ描くことが出来れば、きっと子どもたちも同じ気持ちで観てもらえると思い、作品づくりを決めました。

火の鳥は鳴き叫びます「愚かな人間たちよ、どうして同じ過ちを繰り返すの。自然からもらった生命を大切にしないの」と・・・生命を正しく使うにはどうしたらいいのかきつとナギが教えてくれるはずです。

人形は魂がありません。劇中で生きてこそ、初めて魂が入ります。その「魂=心」は、実は劇を観ている観客の心が反映されているのです。これが人形劇の特性です。ナギの「心」に映ったものは、観ている子どもたちに芽生えた「心」なのです。

2011年3月11日、まさに未曾有の大震災が起きました。阪神・淡路大震災を体験したクララルテは、兵庫をはじめ東北・沖縄・北海道と、全国にこの「火の鳥」を届け、共に生きる意味を考えたいと思っています。

この世界はどうして生まれたの
人間は何のために生まれたの

2013年10月17日(木)

開演18:30 (開場18:00)

(上演2時間15分 休憩あり)

喜多方プラザ文化センター大ホール

主催/喜多方プラザ文化センター

(喜多方プラザ文化センター-自主文化事業推進協議会)

後援/喜多方市教育委員会・北塩原村教育委員会・

西会津町教育委員会・テレビユー福島・

福島民権社・福島民友新聞社・

喜多方シティエフエム

入場料/一般2,000円

学生(4才~高校生)1,500円



私たちは、考える、愛する、思いやることのできる存在としてここにいるのです。だったら、この力を思い切り使いましょう。生きる力の中に組み込まれた「争う」という力を、愛する力に転換していく努力をしてこそ、単に「生きる」だけでなく「よく生きる」ことができるのです。これが、私たちがここに生れ、存在する意味なんだよ。「火の鳥」はそう語りかけていると私は思っています。

「火の鳥」パフフレット(児童の中の帯巻として)より抜粋

J T生命誌研究館 館長
中村 桂子

(全国観劇公演2013-2014)

2013年

7月25日(木) 兵庫県立芸術文化センター

10月17日(木) 喜多方プラザ文化センター

11月2日(土) 山口県光市民ホール

11月4日(月・祝) 広島県安佐北区民文化センター

12月21日(土) 岩手県花巻市文化会館

2014年

2月8日(土) 群馬県高崎文化会館

3月予定 沖縄県かどな文化センター

5月11日(日) 北海道札幌市教育文化会館

